

### 第36回日本精神科看護学会福岡大会報告



日本精神科看護学会福岡大会は、平成23年5月31日～6月1日の間、福岡国際会議場で行われました。

学会主題として、「多職種チームの実現と看護の役割」を掲げ、聖路加看護大学精神看護学 教授 萱間真美先生による「他職種による看護職のコミュニケーション技術について」の基調講演も開催されました。

また、14の会員企画セミナーでは、1時間の短い時間でしたが様々な題材から興味深いセミナーが行われていました。

研究発表については、全国から222の研究発表が行われました。

発表論文は、記録関係・禁煙・患者との関わり・スタッフのストレス・長期入院・行動制限・暴力・心理教育・退院支援・アディクションなど様々な視点からの内容で、精神科看護の質の向上を図るために参考となるものや日頃の看護業務に直結するものがたくさんありました。

また、全国の看護師が常に問題意識を持ちながら、日頃の看護に取り組んでいることを感じてまいりました。

全国の発表者の方々お疲れさまでした。

また来年も個人として参加したいと思えます。

埼玉県支部長 大床公義

第10群 47席

精神科救急病棟における患者持ち込み品の看護基準作成に向けての取り組みⅡ

自己は開口道・他害行動アセスメントスコアシートの作成

埼玉医科大学 大賀公子



質問	回答
① どの程度のリスクが危険物に値するか	① スタッフに細かなインタビューをしていないが、おそらく経験年数の多い看護師の方が入れている項目数が多かったので過去の経験や看護感であったり、症状についての予測等が入っていたように思えます。今後はレベルに分けて誰でも経験にかかわらず持ち込み品を点検できたらいいと考えています。
② 精神科にいた人と他科から異動してきた看護師の経験年数については	② 今回は看護師経験、精神科経験と分けてきています。看護師経験が10年であっても、精神科経験1年であれば、5年未満としてみました。

第14群 65席

ルーチン外業務増加に伴う職員ストレスについて

職業正ストレス簡易調査票の結果から

財団法人西熊谷病院 綱島和美



質問	回答
① 発症して2週間で終息したが今後の対策として共通認識したことは？	① 認知症だけということではないのですが、感染に対し早期発見と早い段階でしっかりした対応をすることがかなり重要と感じました

## 第 19 群 92 席

### 多飲症患者の行動制限と看護者の関わりについて

医療法人弘心会武蔵の森病院 田中由美子



質問	回答
① 制限を加えることで難しい点はどんなことでしたか	① 飲水行為が多くなるとスタッフから「隔離した？」という声も聴かれ統一した関わりを継続していくことが大変だった。
② 看護師の関わりで効果が得られたとなっているが具体的な内容は	② ペットボトルからコップに変えたことで他の患者と同じように接してあげたことが良かったのだと思います

## 第 26 群 123 席

### 看護師による患者心理教育の導入に向けて

埼玉精神神経センター毛呂病院 日下部加奈子



質問	回答
① 作業療法士の心理教育に看護師が一緒に入ったのですか	① 作業療法士による心理教育には看護師は入れていません。また看護師独自の教育プランは行っていません。
② 病棟での心理教育をどのように取り入れる予定ですか	② 週に一度程度、病棟内の面会室等を利用して少人数からでも行っていきたいと考えていますが、まだ具体的になっていません。

発表者及び共同研究者の皆様、お疲れさまでした。

今回を機会に今後も研究に取り組んで様々な学会での発表を期待いたします。

来年は、神戸での全国大会が予定されています。

埼玉県支部では、11月に看護研究発表会があります。発表演題から来年神戸への推薦がされます。各病院からの参加と演題申し込みをお待ちしております。

問い合わせ先 = 埼玉県支部事務局